

2012年度 第3四半期決算の概要

2013年1月29日(火)

**コマツ
執行役員 経営管理部長
坂野 泰司**

1. 2012年10-12月（3カ月間）の実績

2012年10-12月（3カ月間）の連結売上高と損益

3

・石炭鉱山向け以外の鉱山機械の販売は堅調に推移したものの、インドネシアの石炭鉱山向け需要の減少、中国の需要回復の遅れ等により、対前年同期比減収減益。

□ : 利益率

(): 外部顧客向け売上高

金額単位: 億円

	2011年10-12月 1ドル = 77.9円 1ユーロ = 104.9円 1元 = 12.3円	2012年10-12月 1ドル = 80.1円 1ユーロ = 103.5円 1元 = 12.8円	対前年同期比	
			増 減	増減率
売上高	4,626	4,197	▲429	▲9.3%
- 建設機械・車両	(4,114) 4,126	(3,679) 3,684	(▲434) ▲441	(▲10.6%) ▲10.7%
- 産業機械他	(512) 530	(517) 534	(+5) +3	(+1.0%) +0.7%
- 消去	▲30	▲21	+8	-
セグメント利益	12.7% 588	9.5% 397	▲191	▲32.4%
- 建設機械・車両	14.3% 588	10.5% 388	▲200	▲34.0%
- 産業機械他	3.0% 15	1.0% 5	▲10	▲67.2%
- 消去または全社	▲15	4	+19	-
その他の営業収益(▲費用)	0	▲5	▲5	-
営業利益	12.7% 588	9.3% 392	▲196	▲33.4%
その他の収益(▲費用)	▲34	9	+44	-
税引前純利益	554	402	▲152	▲27.5%
純利益*1	347	249	▲97	▲28.0%

*1 米国財務会計基準審議会会計基準編纂書810の適用による「当社株主に帰属する四半期純利益」

□ 2012年度第3四半期の業績は、インドネシアの石炭鉱山向け需要の減少と中国の需要回復の遅れ等により、売上高は対前年同期比▲9.3%減収の4,197億円、営業利益は同▲33.4%減益の392億円となりました。

□ 建設機械・車両部門の売上高は対前年同期比▲10.7%減収の3,684億円、産業機械他部門は同+0.7%増収の534億円となりました。

□ 為替レートは前年同期比でドルと元が円安、ユーロが円高でしたが相殺され、対前年同期比での為替差は売上、利益共にありませんでした。

□ 建設機械・車両部門のセグメント利益は、対前年同期比▲34.0%減益の388億円、セグメント利益率は10.5%となりました。減益額▲200億円のうち、約8割、約▲160億円は物量差です。

□ 産業機械他部門は、セグメント利益5億円、セグメント利益率1.0%でした。

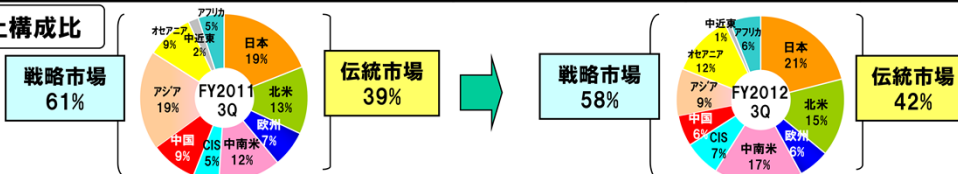
＜建設機械・車両＞2012年10-12月(3カ月間)の地域別売上高(外部顧客向け)

4

- ・中南米、オセアニア等において、石炭鉱山向け以外の鉱山機械の販売が堅調に推移したが、インドネシアの需要低迷、中国の需要回復の遅れ等により、対前年同期比▲10.6%の減収。
- ・鉱山機械の売上高は、対前年同期比+3.9%の増収。

(金額単位:億円)		2011年10-12月 (FY11/3Q)	2012年10-12月 (FY12/3Q)	対前年同期比	
				増 減	増減率
伝統市場	日本	780	760	▲20	▲2.6%
	北米	552	560	+8	+1.6%
	欧州	291	228	▲63	▲21.7%
戦略市場	中南米	489	629	+139	+28.5%
	CIS	185	244	+58	+31.6%
	中国	355	204	▲150	▲42.4%
	アジア	794	347	▲447	▲56.3%
	オセアニア	385	435	+49	+12.9%
	中近東	72	44	▲28	▲38.8%
	アフリカ	205	222	+17	+8.6%
合計		4,114	3,679	▲434	▲10.6%
うち、鉱山機械		1,339	1,391	+52	+3.9%

地域別売上構成比



- 2012年度第3四半期の建設機械・車両部門の売上高(外部顧客向け)は、中南米、オセアニア、CIS等において鉱山機械の販売が堅調に推移したものの、インドネシアの需要低迷、中国の需要回復の遅れ等により、対前年同期比▲10.6%減収の3,679億円となりました。
- うち、鉱山機械の売上高は、対前年同期比+3.9%増収の1,391億円でした。

- 地域別売上高は中国が対前年同期比▲150億円、アジアが同▲447億円の減収となりました。アジアの減収のうち、インドネシアが約▲380億円、対前年同期比約7割の減収となりました。

- 地域別売上構成比は中国が6%、アジアが9%と、前年同期と比べて縮小する一方、日本・北米・中南米・オセアニア等の比率が増加しました。

2. 2012年4-12月(9カ月間)の実績

2012年4-12月（9カ月間）の連結売上高と損益

6

・インドネシアの石炭鉱山向け需要の減少、中国の需要回復の遅れ、ワイヤーソーの需要低迷等により、対前年同期比減収減益。

％：利益率 ()：外部顧客向け売上高

金額単位：億円

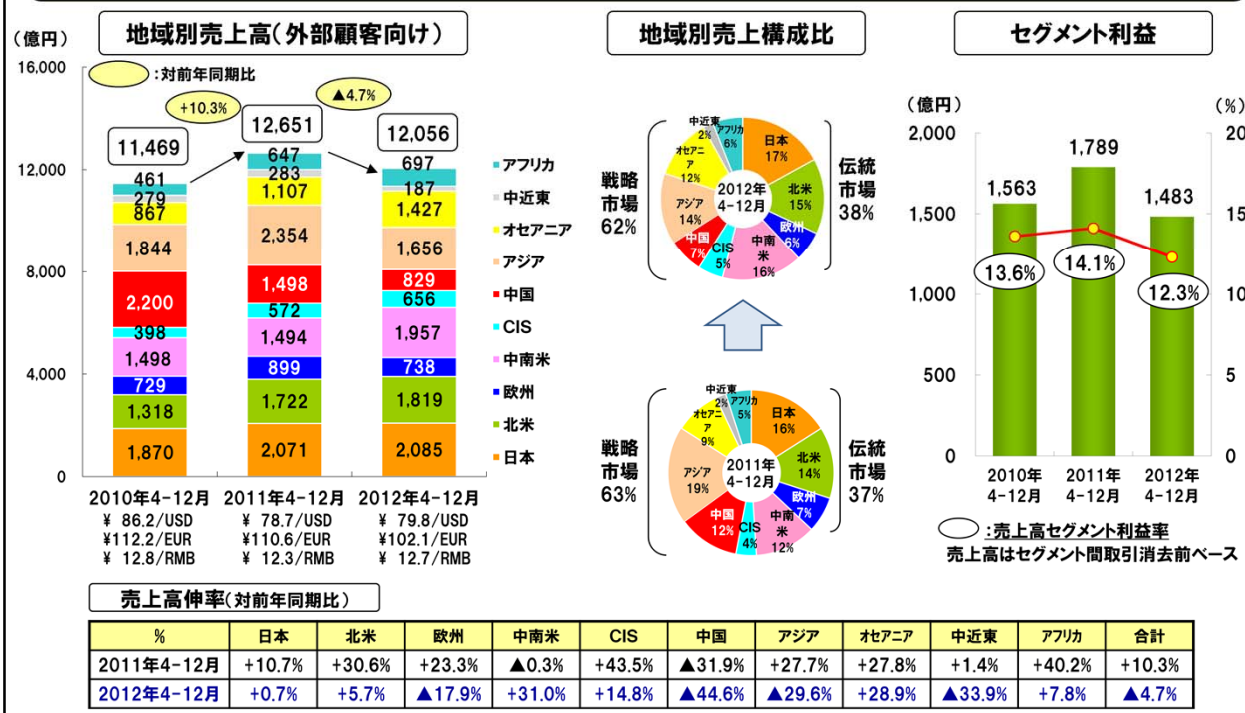
	2011年4-12月 1ドル = 78.7円 1ユーロ = 110.6円 1元 = 12.3円	2012年4-12月 1ドル = 79.8円 1ユーロ = 102.1円 1元 = 12.7円	対前年同期比	
			増 減	増減率
売上高	14,485	13,505	▲979	▲6.8%
- 建設機械・車両	(12,651) 12,690	(12,056) 12,076	(▲594) ▲614	(▲4.7%) ▲4.8%
- 産業機械他	(1,834) 1,894	(1,449) 1,506	(▲384) ▲388	(▲21.0%) ▲20.5%
- 消去	▲99	▲76	+23	-
セグメント利益	13.2% 1,916	11.2% 1,510	▲405	▲21.2%
- 建設機械・車両	14.1% 1,789	12.3% 1,483	▲305	▲17.1%
- 産業機械他	8.8% 167	2.5% 38	▲128	▲77.1%
- 消去または全社	▲40	▲11	+29	-
その他の営業収益(▲費用)	1	▲5	▲7	-
営業利益	13.2% 1,918	11.1% 1,504	▲413	▲21.6%
その他の収益(▲費用)	▲61	▲49	+12	-
税引前純利益	1,856	1,455	▲401	▲21.6%
純利益*1	*2 1,293	910	▲382	▲29.6%

*1 米国財務会計基準審議会会計基準編纂書810による「当社株主に帰属する四半期純利益」

*2 コマツレンタル吸収合併に伴う税効果127億円を含む。

- 2012年度4-12月の売上高は対前年同期比▲979億円減収の1兆3,505億円、営業利益は同▲21.6%減益の1,504億円でした。
- 建設機械・車両部門の売上高は、インドネシアの石炭鉱山向け需要の低迷と中国の需要回復遅れが影響し、対前年同期比▲614億円減収の1兆2,076億円で、為替差を除くと約▲540億円の減収となりました。
- 純利益は、2011年度にコマツレンタルの吸収合併に伴う税効果127億円があり、この影響を除くと対前年同期比約▲22%の減益となりました。
- 産業機械他部門の売上高は、ワイヤーソーの需要低迷により対前年同期比▲388億円減収の1,506億円となりました。
- 建設機械・車両部門のセグメント利益は対前年同期比▲17.1%減益の1,483億円、セグメント利益率は同1.8ポイント減の12.3%でした。
- 産業機械他部門のセグメント利益は、ワイヤーソーの需要低迷で対前年同期比▲77.1%減益の38億円、セグメント利益率は2.5%にとどまりました。

- ・中南米、オセアニア、CISの鉱山機械、北米の建設機械の販売が堅調に推移したものの、インドネシア、中国の需要減の影響により、対前年同期比▲4.7%の減収。
- ・中国、アジアの売上構成比が減少する一方、鉱山機械が堅調な中南米、オセアニアの比率が増加。



□ 2012年4月-12月の建設機械・車両部門の地域別売上高(外部顧客向け)は対前年同期比▲4.7%減収の1兆2,056億円でした。

□ 地域別の売上高は、中国が対前年同期比▲44.6%減、インドネシアを含むアジアが▲29.6%減、欧州が▲17.9%減となりました。

□ 一方、中南米+31.0%増、オセアニア+28.9%増、CIS+14.8%増と資源国を中心に売上が伸びました。

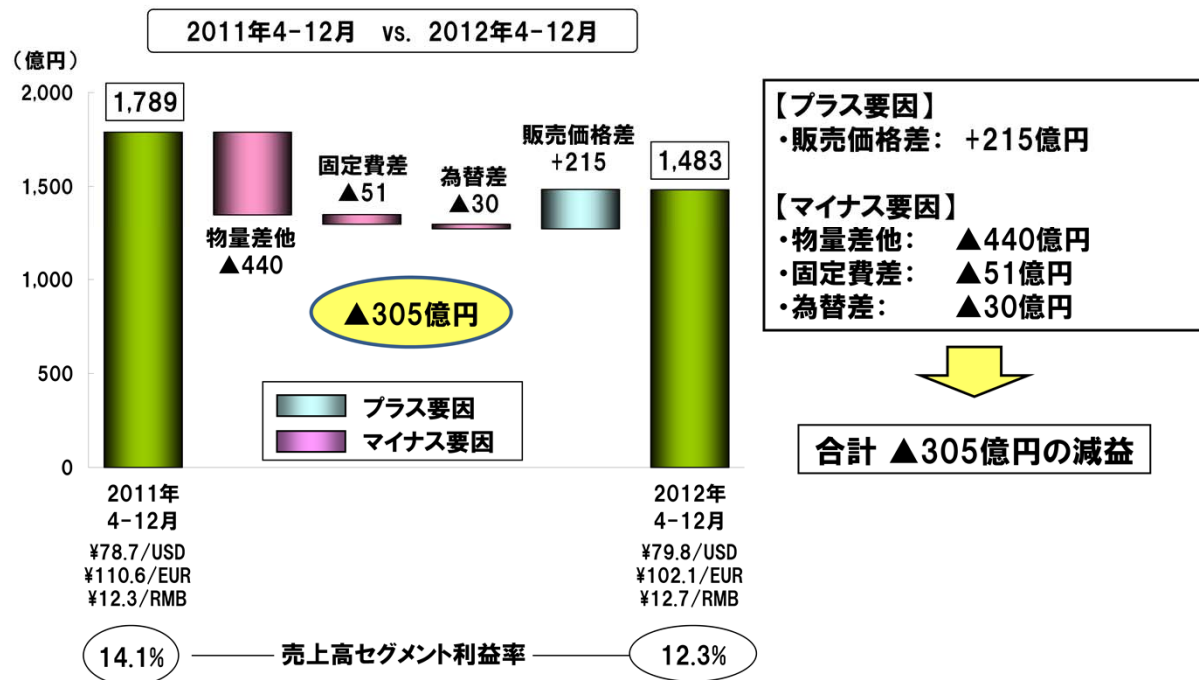
□ 地域別売上構成比は、中国が前年同期の12%から7%に下がる一方、中南米、オセアニアの比率が上昇しました。

□ セグメント利益率は対前年同期比▲1.8ポイント減の12.3%でした。

<建設機械・車両> 2012年4-12月(9カ月間) セグメント利益の増減要因

8

・インドネシアならびに中国での需要減に伴う物量減等の影響を、販売価格の改善により一部カバーしたが、対前年同期比▲305億円の減益。



□ 建設機械・車両部門のセグメント利益について、2012年4-12月と前年同期を比較しています。

□ セグメント利益は対前年同期比▲305億円減益の1,483億円となりました。

□ 物量差他は▲440億円のマイナスですが、インドネシアならびに中国需要減に伴う売上減の物量差が約▲250億円含まれています。
また、国内工場の生産調整に伴う影響が約▲70億円、棚卸資産の未実現利益による影響が約▲70億円含まれています。鉱山機械の出荷を期末に向けて進めていきますので、今後、未実現利益は減少する見通しです。

□ 研究開発費、業績連動賞与の増加等により、固定費差は対前年同期比▲51億円マイナスとなりました。

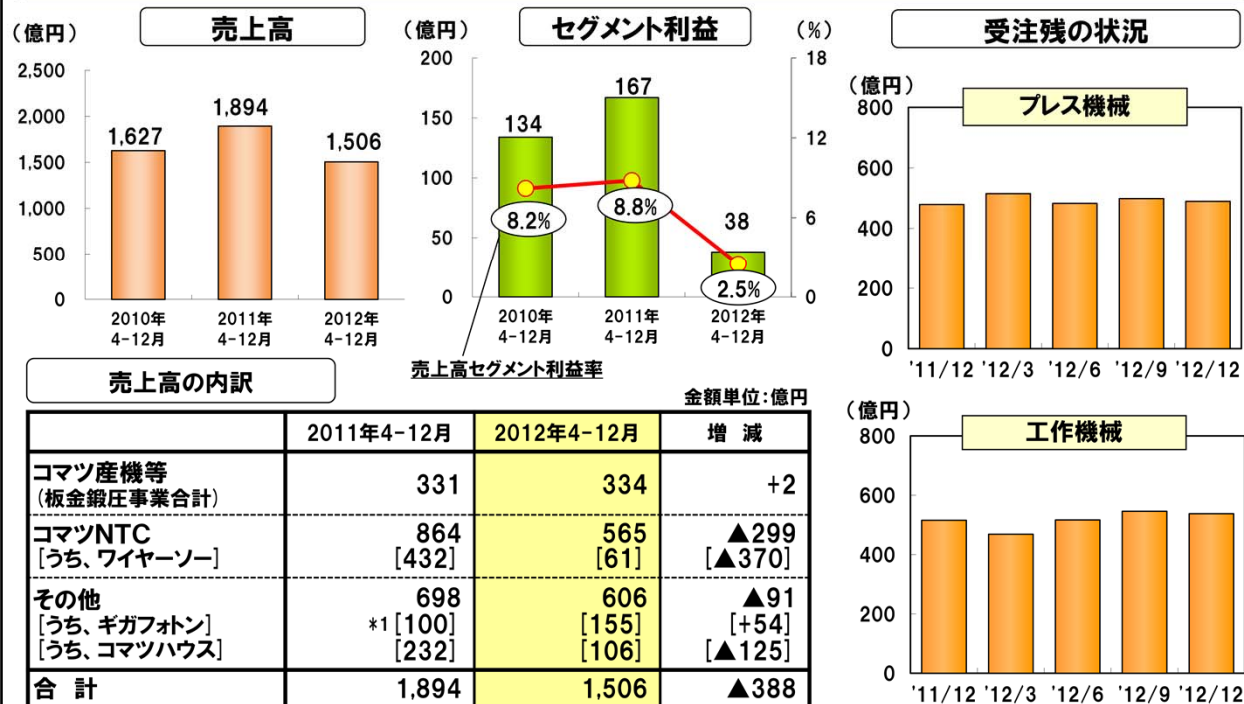
□ 為替差はユーロに対する円高の影響等で▲30億円マイナスとなりました。

□ 販売価格差は、+215億円のプラス。北米のTier4の値上げ効果等で物量差等のマイナスを約半分カバーしました。

<産業機械他> 2012年4-12月(9カ月間)の売上高とセグメント利益

9

- ・プレス機械、工作機械の需要は堅調であったが、ワイヤーソーの需要低迷、仮設住宅用プレハブハウスの需要一巡等により、対前年同期比減収減益。
- ・プレス機械、工作機械の受注残は引き続き安定的に推移。



*1 ギガフオンは2011年度第2四半期から新規連結

- 産業機械他部門の売上高は対前年同期比▲388億円減収の1,506億円となりました。セグメント利益は対前年同期比▲128億円減益の38億円、セグメント利益率は2.5%でした。
- プレス機械・工作機械の需要、売上は堅調でしたが、ワイヤーソーの需要低迷が影響し、コマツNTCの売上は対前年同期比▲299億円減収、仮設用プレハブハウスの需要の一巡に伴い、コマツハウスの売上は▲125億円減収となりました。
- プレス機械、工作機械の受注残は引き続き安定的に推移しています。工作機械は自動車メーカーからの受注が堅調です。

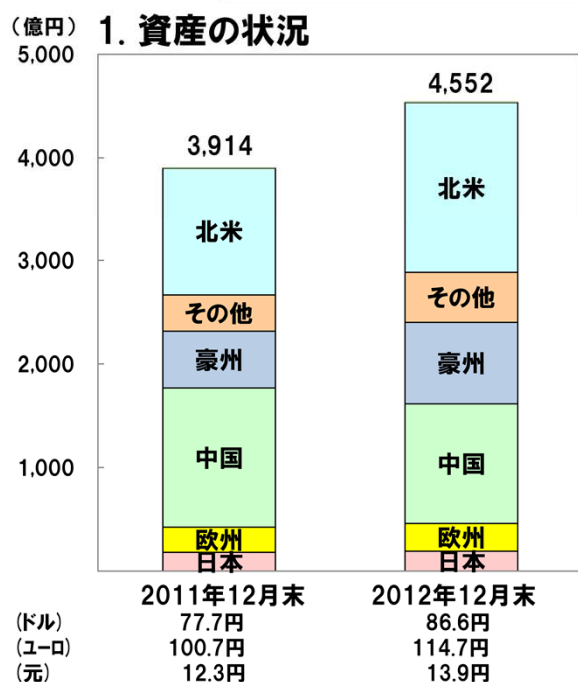
リテールファイナンスの状況

10

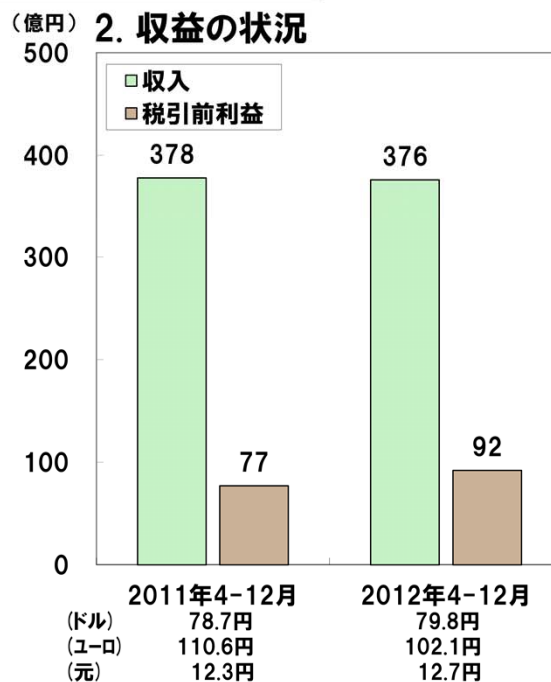
- ・資産は、中国で減少したが大幅な円安の影響等により、2011年12月末比で増加。
- ・中国での販売減に対し、北米やチリ、豪州での販売増等により増益。

リテールファイナンス子会社の状況

1. 資産の状況



2. 収益の状況



□ リテールファイナンス子会社の総資産は、2011年12月末比+638億円増の4,552億円でした。このうち、為替差が+445億円ありますので、実質差は+194億円でした。

□ 中国の資産は、販売減に伴い実質▲300億円減の1,150億円でしたが、北米が実質+220億円増の1,650億円、オーストラリアが実質+150億円増、「その他」に含まれるチリ、タイもそれぞれ実質約50億円のプラスでした。

□ 収益については為替の影響はほとんどありませんでした。
 収入は、利下げの影響や中国の減収もあり、対前年同期比でほぼ横ばいとなりました。
 税引前利益は、北米、オーストラリア、チリ等の増益と、中国の引当金の戻し等により、+15億円の増益となりました。

連結貸借対照表

11

- ・総資産は、為替レートが円安となったこと等により前期末比で+515億円増加。
- ・株主資本比率は同2.6ポイント増の46.1%。

ネットD/Eレシオ	金額単位: 億円	2012.3.31 1ドル=82.2円 1ユーロ=109.8円 1元=13.1円	2012.12.31 1ドル=86.6円 1ユーロ=114.7円 1元=13.9円	増 減
現金・預金(含む定期預金) [a]		839	951	+111
受取手形・売掛金(含む長期売上債権) ＜除くリテールファイナンス会社＞		7,440 <3,975>	7,131 <3,441>	▲308 <▲533>
棚卸資産		6,123	6,524	+400
有形固定資産		5,296	5,647	+350
その他資産		3,504	3,465	▲39
資産合計		23,205	23,721	+515
支払手形・買掛金		2,734	2,028	▲706
借入金・社債 [b] ＜除くリテールファイナンス会社＞		6,478 <3,369>	7,041 <3,736>	+563 <+366>
その他の負債		3,418	3,194	▲223
負債合計		12,630	12,264	▲365
(株主資本比率)	(43.5%)		(46.1%)	(+2.6ポイント)
株主資本		10,096	10,941	+844
非支配持分		477	514	+37
負債及び純資産合計		23,205	23,721	+515
ネットベースの借入金・社債 [b-a]		0.56 5,638	0.56 6,090	+452
ネットD/Eレシオ(リテールファイナンス会社を除いた場合)		0.28	0.29	

□ 2012年12月末の総資産は2兆3,721億円と2012年3月末比で+515億円増加していますが、為替の影響が約+690億円あるため、実質では約▲170億円の減少となっています。

□ 売上債権は売上減少や回収促進等で、実質約▲560億円減少しています。

□ 棚卸資産は、鉱山機械を中心に実質約+170億円増加していますが、期末に向けて削減を進めていきます。

□ 借入金は、+563億円増加していますが、実質では+365億円の増加です。期末に向けて棚卸資産や在庫を減らし、借入金も減少させていきます。

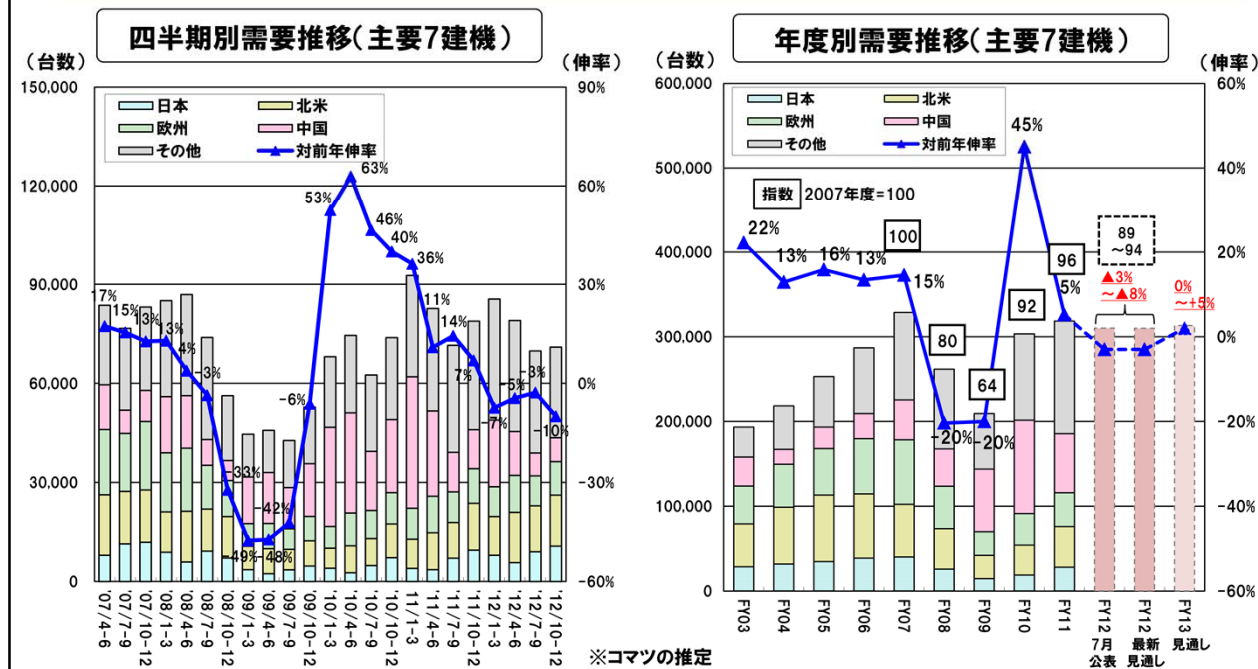
□ ネットD/Eレシオはほぼ横ばい、株主資本比率は+2.6ポイントプラスの46.1%となりました。

3. 建設・鉱山機械の需要状況と今後の見通し

<建設・鉱山機械> 主要7建機需要推移

13

- ・第3四半期の需要は、日本、北米が堅調に推移する一方、インドネシア、中国が低調に推移し、対前年同期比▲10%。
- ・2012年度の需要は、2012年7月公表値と同水準の見通し。(前期比▲3%～▲8%)。
- ・2013年度の需要は、引き続き日本、北米が底堅く推移するとともに、中国の需要底打ちが見込まれ、2012年度並みの水準(2012年度比0%～+5%)となる見通し。

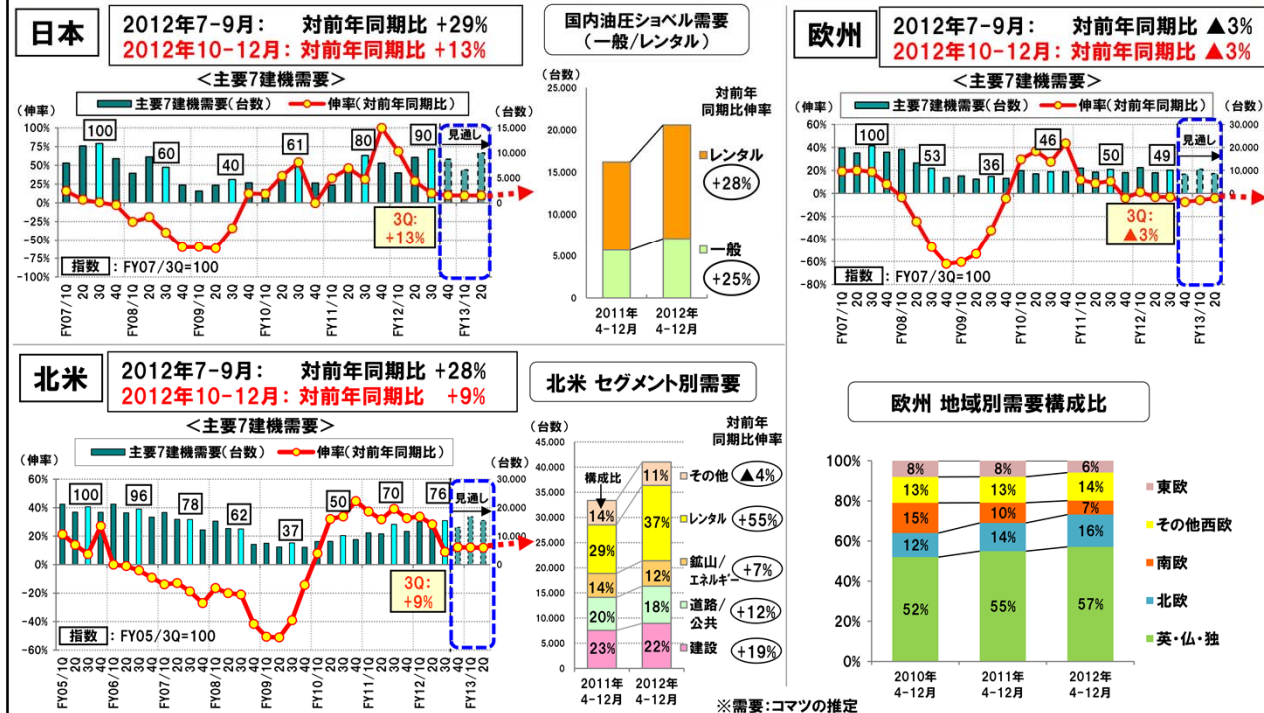


- 第3四半期の主要7建機全体の需要は、日本および北米が堅調でしたが、インドネシア、中国の低迷が響き、対前年同期比▲10%の減少となりました。
- 2012年度の需要は、7月の公表値と変わらず前期比▲8%～▲3%、30万台強と見えています。
- 2013年度の需要は、日本および北米が引き続き堅調に推移し、中国需要の底打ちも見込まれる事から、2012年度並みの水準(2012年度比0%～+5%)と見えています。

<建設・鉱山機械> 主要市場の需要推移①: 伝統市場

14

- ・第3四半期の日本の需要は、対前年同期比+13%増。震災復興需要の本格化により第4四半期以降も堅調に推移する見通し。
- ・第3四半期の北米の需要は、レンタル向け、住宅向けが堅調に推移し、対前年同期比+9%増。住宅市場の回復基調に伴い、第4四半期以降も堅調に推移する見通し。
- ・第3四半期の欧州の需要は、対前年同期比▲3%減。第4四半期以降も引き続き低い水準で推移する見通し。

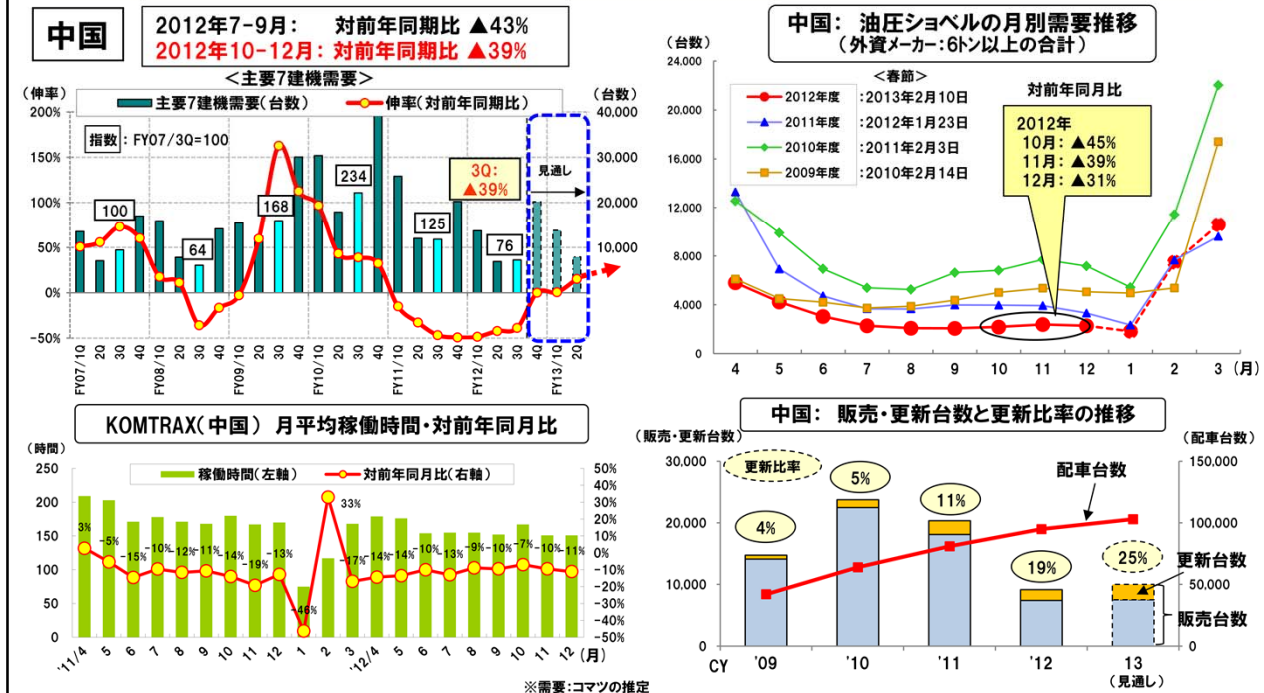


- **日本:** KOMTRAXの月平均稼働時間は、11月が対前年同月比+3% 12月が同+4%、と堅調でした。第3四半期の需要も対前年同期比+13%と堅調です。2012年4-12月累計の国内油圧ショベルの需要は、レンタル向け、一般向けともに対前年同期比+20%以上増加しました。夏以降、震災復興需要が本格化することが見込まれており、引き続き需要は堅調に推移すると見ています。
- **北米:** 第3四半期の需要は、レンタル向け、住宅向け等が引き続き堅調に推移し、対前年同期比+9%増となりました。KOMTRAXの月平均稼働時間は、12月は対前年同月比▲11%とやや弱くなりましたが、レンタル向けの構成比増加による影響もあると見ており、それほど心配していません。住宅市場の回復に伴い、第4四半期以降も需要は堅調に推移すると見ています。
- **欧州:** 第3四半期の需要は対前年同期比▲3%減でした。KOMTRAXの月平均稼働時間は、11月が対前年同月比▲8%、12月が同▲15%とやや低調で、主要市場であるドイツ、イギリス、フランス等の足元の需要がやや弱くなっています。2012年4-12月累計の地域別需要構成比は、南欧の比率が7%と2010年と比べて約半分程度になりました。第4四半期以降も、需要は低い水準で推移する見通しです。

<建設・鉱山機械> 主要市場の需要推移②: 中国

15

- ・第3四半期の中国の需要は、対前年同期比での減少幅が縮小し、▲39%。
- ・第4四半期以降の需要は、春節明けの底打ちが見込まれ、2013年度上期は、2012年度上期並みの水準に回復の見通し。



□ 中国の第3四半期の需要は対前年同期比▲39%となり、第2四半期に比べて減少幅がやや改善しました。KOMTRAXの月間平均稼働時間は、12月が対前年同期比▲11%と、横ばいの状況が続いています。6トン以上の外資メーカー油圧ショベルの月別需要は、10月が対前年同月比▲45%、11月が同▲39%、12月が同▲31%と回復傾向にあります。

□ 第4四半期以降の需要は、先行指標となる鉄道建設投資額が、2012年下期より対前年同期比で増加に転じていることもあり、春節明けの底打ちが見込まれます。

□ 右下の赤の折線グラフは中国の配車台数を示しており、2012年末で約9万8,000台です。配車が増えるにしたがい、新車販売台数に占める下取りの更新台数比率も増えています。2012年の新車販売台数は約9,200台ですが、このうち約5分の1が更新需要と見ています。今後、新車販売台数に占める更新需要の比率はますます増加していくと見込まれ、既存のコマツユーザーにおける更新需要を着実に取り込むことが重要になります。

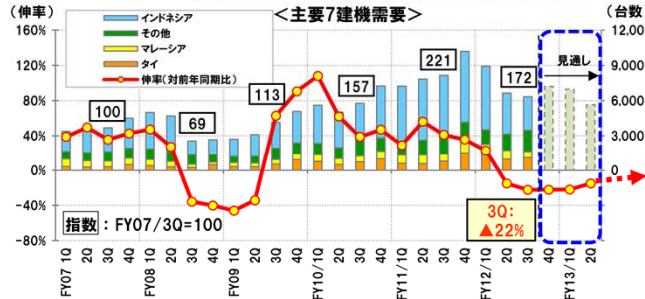
<建設・鉱山機械> 主要市場の需要推移③: 東南アジア

16

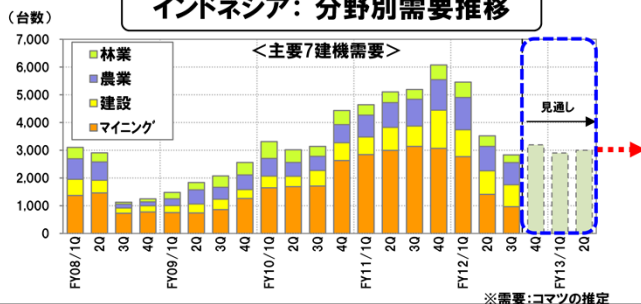
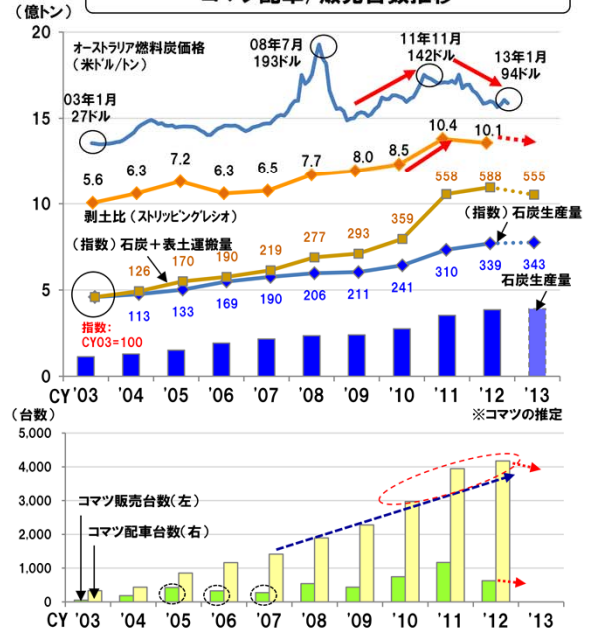
- ・第3四半期の東南アジアの需要は、インドネシアの石炭鉱山向け需要低迷により、対前年同期比▲22%。
- ・燃料炭価格はやや持ち直しているが、本格的な回復には時間がかかる見通し。インドネシアの需要は下げ止まりが見込まれるが、当面は低い水準で推移する見通し。

東南アジア

2012年7-9月: 対前年同期比 ▲15%
2012年10-12月: 対前年同期比 ▲22%



インドネシア: 分野別需要推移

インドネシア 石炭生産量・運土量
コマツ配車/販売台数推移

□ インドネシアの石炭鉱山向け需要減速の影響で、第3四半期の需要は対前年同期比▲22%減となりました。

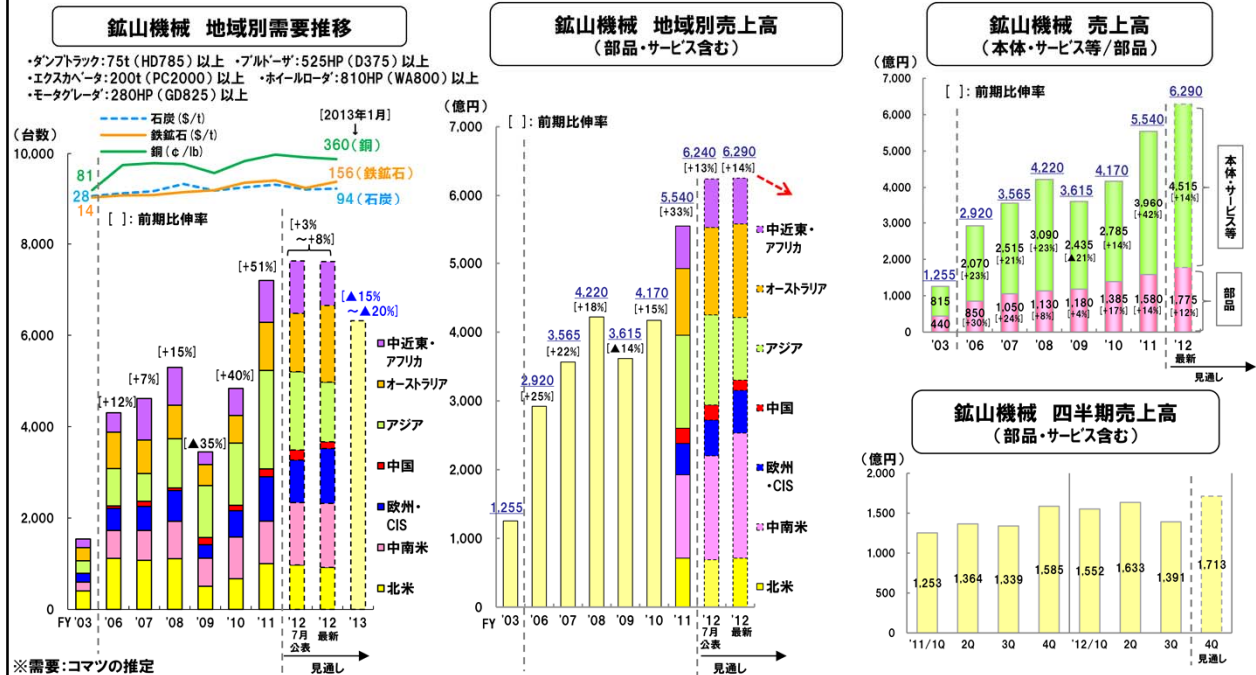
□ 右のグラフは、インドネシアの石炭に関するグラフで、一番上の青の折線が燃料炭の価格推移です。その下のオレンジの折線は石炭の産出量と、それに付随する表土の運搬量との比率を示す、ストリッピングレシオを示しています。さらに、その下の折線は、青が石炭の生産量、黄色が石炭と表土の運搬量で、2003年を100とした指数です。青の棒グラフは石炭生産量です。一番下の緑の棒グラフはコマツの販売台数で、黄色の棒グラフが各年末の配車台数です。

□ 石炭と表土の運搬量は、石炭価格が上がった2010年以降に急上昇しており、ストリッピングレシオが高くなっています。2011年、2012年はストリッピングレシオの高い鉱山が稼働していた事にともない運搬量が伸び、コマツのダンプ需要が増加し、配車台数も増えました。その後、燃料炭価格は下落し、2013年1月現在、1トン当たり90ドル台で推移しています。その結果、運土量の伸びは鈍化し、仕事量に対して配車台数が過剰な状態となっています。通常5年～7年で機械を更新するので、2005～2007年に販売した車が今後の更新対象となります。現状の分析では、燃料炭価格が100ドルを超えて安定しないと、短期間でこの過剰配車は解消されず、需要の本格的な回復にはつながらないと見えています。

＜建設・鉱山機械＞ 鉱山機械 地域別需要とコマツの売上高

17

- ・2012年度の需要は、地域間の変動はあるものの、7月公表値と同水準の見通し(前期比+3%～+8%)。
- ・2013年度の需要は 2012年度的水準に対して▲15%～▲20%の見通し。
- ・2012年度の売上高は、インドネシア向けの販売は減少するものの、中南米、オーストラリア等での販売増および円安の影響により、7月公表見通しを50億円上回り、前期比+14%増収となる6,290億円の見通し。



□ 2012年度の鉱山機械の需要は、インドネシアの減少はあるものの、前期比+3%～+8%と、7月公表値と同水準の見通しです。

□ 鉄鉱石、銅、原料炭の価格は安定しており、インドネシア以外の需要は堅調に推移しています。

□ 2013年度の需要は、主要大手資源企業が設備投資に慎重な姿勢を示していることもあり、2012年度比で約▲15%～▲20%減少する見通しです。

□ 中南米、オーストラリア等、燃料炭以外の中・大型機械中心の地域の売上は堅調に推移しています。円安の影響もあり、2012年度の鉱山機械事業の売上高は6,290億円、7月公表見通しに対して+50億円の増収となる見通しです。第4四半期に、円安の影響額+150億円を見込んでいます。

2012年度 年間業績見通し

18

- ・インドネシアの石炭鉱山向け需要の低迷等を反映し、2012年7月31日に公表した業績見通しを修正。
 ・7月公表の連結売上高見通しに対し、インドネシア向けの販売数量減等▲900億円、円安による為替差
 +400億円を織り込み、計▲500億円減収の見通し。営業利益は▲320億円減の2,300億円の見通し。

利益率 ():外部顧客向け売上高		2012年度第4四半期 想定為替レート 1ドル=88円、1ユーロ=115円、1元=14.1円		金額単位:億円			
	FY2011/年間 (実績) (A) 1ドル=79.0円 1ユーロ=109.6円 1元=12.4円	FY2012/年間 (7月公表値) (B) 1ドル=79円 1ユーロ=99円 1元=12.6円	FY2012/年間 (最新見通し) (C) 1ドル=82円 1ユーロ=106円 1元=13.0円	7月公表値との差 (C-B)		対前期比 (C-A)	
				増減	増減率	増減	増減率
売上高	19,817	19,700	19,200	▲500	▲2.5%	▲617	▲3.1%
- 建設機械・車両	(17,393) 17,442	(17,660) 17,700	(17,160) 17,200	(▲500) ▲500	(▲2.8%) ▲2.8%	(▲233) ▲242	(▲1.3%) ▲1.4%
- 産業機械他	(2,424) 2,511	(2,040) 2,100	(2,040) 2,100	(0) 0	(0.0%) 0.0%	(▲384) ▲411	(▲15.8%) ▲16.4%
- 消去	▲136	▲100	▲100	0	-	+36	-
セグメント利益	13.1% 2,586	13.5% 2,650	12.1% 2,330	▲320	▲12.1%	▲256	▲9.9%
- 建設機械・車両	14.1% 2,462	14.9% 2,640	13.5% 2,320	▲320	▲12.1%	▲142	▲5.8%
- 産業機械他	6.7% 167	2.9% 60	1.9% 40	▲20	▲33.3%	▲127	▲76.2%
- 消去または全社	▲44	▲50	▲30	+20	-	+14	-
その他の営業収益(▲費用)	▲23	▲30	▲30	0	-	▲6	-
営業利益	12.9% 2,563	13.3% 2,620	12.0% 2,300	▲320	▲12.2%	▲263	▲10.3%
その他の収益(▲費用)	▲67	▲100	▲80	+20	-	▲12	-
税引前当期純利益	2,496	2,520	2,220	▲300	▲11.9%	▲276	▲11.1%
純利益 *1	1,670	1,570	1,380	▲190	▲12.1%	▲290	▲17.4%

*1 米国財務会計基準審議会会計基準編纂書810の適用による「当社株主に帰属する当期純利益」

□ インドネシアの石炭鉱山向け需要の低迷を反映し、7月に公表した業績見通しを売上高▲500億円、営業利益▲320億円下方修正しました。

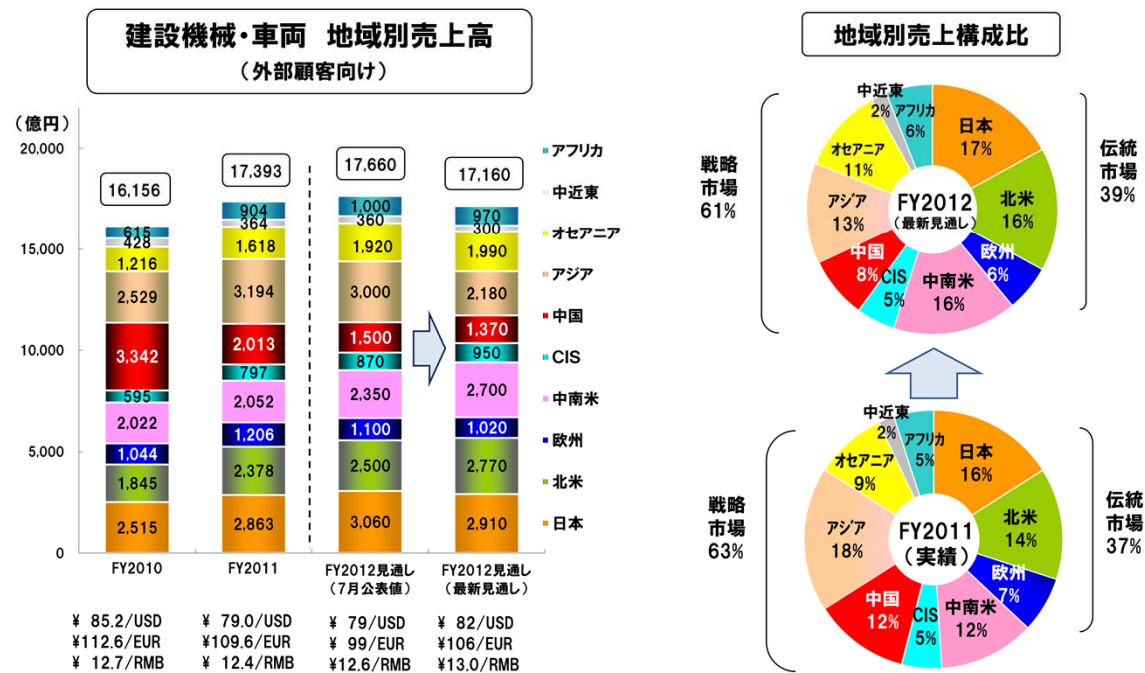
□ 売上高は、7月公表見通しに対して、為替レート変動の影響を除いた物量減で▲900億円の見通しですが、円安による為替差+400億円を見込んでおり、合計すると▲500億円の減収となる見通しです。

□ インドネシアの売上高は、円安の影響を含めて対前期比約▲600億円減少する見通しであり、この減収分を他地域の売上でカバーできない見通しです。

<建設機械・車両> 2012年度年間 地域別売上高見通し(外部顧客向け)

19

・建設機械・車両部門の2012年度売上高(外部顧客向け)は、7月公表見通しに対し、インドネシアの需要低迷等に伴う販売減▲900億円、円安による為替差+400億円を織り込み、合計▲500億円減収の1兆7,160億円となる見通し。



- 建設機械・車両部門の地域別売上高は、7月公表見通しに対し、アジアが▲820億円減収(うちインドネシア▲600億円)、中国が▲130億円減収の見通しです。
- 日本は建設機械・車両の売上げは堅調に推移しているものの、鋳物の外販減少等の影響で▲150億円減収の見通しです。
- 中南米で+350億円、北米で+270億円の増収が見込まれるものの、インドネシアを中心としたアジア、中国の売上減をカバーできず、7月公表見通しに対し、▲500億円減収の見通しです。



国内でのハイブリッド油圧ショベル
累計導入台数が1,000台を突破

【見通しに関する注記事項】

本資料に記載されている、当期ならびに将来の業績に関する予想、計画、見通し等は、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものです。実際の業績は、様々な要因の変化により、記載の予想、計画、見通しとは大きく異なることがあります。そのような要因としては、主要市場の経済状況および製品需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種規制ならびに会計基準・慣行等の変更などが含まれます。

コマツ 経営管理部 TEL: 03-5561-2687
FAX: 03-3582-8332
<http://www.komatsu.co.jp/>